

第1回京田辺市複合型公共施設整備基本構想検討懇話会

議事概要

<施設全般について>

- 施設の内容を議論するには、どのような人や活動を対象に、どのようなスペースをつくるのかをイメージすることが大切である。
- 京田辺市はベッドタウンであり、特に若い現役世代は市との繋がりが希薄である。市民の繋がりをつくる施設となることが重要である。
- 地域における文化の担い手不足が課題としてある中で、多くの市民が利用するためには地域との繋がりをつくることが重要である。
- 全ての世代を対象とすることは理想であるが、主なターゲットを想定することも大事である。
- 特に機能はなく、人々が気軽に訪れ、出会いや始まりの場となるスペースがあるとよい。
- 賑わいと静寂な空間を単に配置するのではなく、グラデーションをつくることが大切である。
- 社会教育には制約があり、サークル活動はできるが、特に有料のイベントを開催については難しい。

<文化ホールについて>

- 幼い子どもの育児期間は音楽から離れざるをえないが、図書館や子育て施設があれば気軽に訪れることができ、そこで乳幼児連れで参加できる音楽会が開催されていたり、施設内で子どもを預かってもらえれば演奏会を聴きに行くことができる。
- 稼働率や収益を考えると、特に有料公演については、ベッドタウンの特性から仕事帰りや休日の集客への課題がある。
- 使用料が高いと、市民は借りることが難しくなる。
- 客席を階段状の固定席とするのか、平土間に椅子を並べるのか、運営面からはどのようにしたらよいのかなど、たたき台を示してほしい。

<公民館（生涯学習）について>

- 文化活動を行いやすいという視点が大切であり、今の公民館は予約の仕組みや有料イベントの開催に制約があるため、文化活動を行いやすい仕組みづくりが必要である。
- 初めてのコンサートや発表会、展覧会の開催、サークルの結成など、文化活動のスタートアップを支えるため、相談できる人材や気軽に利用できるフリースペースが必要である。
- 色々なジャンルの芸術のコラボ展ができる規模の会場があるとよい。

- 多くの人々に来てもらうためには、音楽と展覧会のコラボや展覧会場の片隅で気軽に参加できるワークショップを開催できるとよい。
- ワークショップは、会議室を利用するだけでなく、ロビーで気軽に参加できる形態があってもよい。

<図書館について>

- 最近では、BGMが流れ、会話もできる部分が主で、一部に静寂な空間がある図書館が多く、このような施設ほど利用者が多い。
- 自習室のニーズが多い。静かな自習室だけでなく、お喋りしてもよい自習室も設けられればよい。
- 座席については自習と読書のバランスを取ることが重要であり、時期による自習の需要の変動に対応するため可変するスペースも必要である。

<施設の運営について>

- 施設の内容だけでなく、運営のルールづくりが重要である。
- 文化ホールと公民館、図書館を1つの管理者が担うことは難しく、全体のコーディネーターとなる人材を育成する仕組みづくりが重要である。
- 来館者の相談にのったり、一緒に何かを考えるスタッフがいればよい。
- 運営には、随時、色々なことを判断しなければならないため、しっかりとした運営者が必要である。
- 指定管理者制度の導入には、運営委託がありきではなく、十分な検討が必要である。

<その他>

- イベントを開催する際、例えば施設に隣接する公園で京田辺市関連の催しを行えば、市のPRにもなるし、人々が訪れやすくなる。
- 乳幼児連れだと駅の近くに子育て支援課の出先として相談窓口があると助かる。
- 雨の日には子どもの遊び場として屋内に大型遊具があると助かるし、複合型公共施設の集客にもつながる。